発行日／令和元年12月5日　発行者／江別市生涯学習推進協議会　編　集／広報委員会　連絡先／江別市教育委員会生涯学習課　〒067-0074　高砂町24-6　電 話 011-381-1062　FAX 011-382-3434　HPアドレス http://shougai.ebetsu.org/生涯学習推進協議会／

令和元年度　生涯学習リレー講座〈地域と共に生きる〉

令和元年九月六日、十三日、二十日の三週にわたって開催された生涯学習リレー講座についてまとめました

講座1　「身近な地域で、仲間と一緒に健康寿命をのばしましょう！」

講　師／江別第二地域包括支援センター　保健師　斉藤ひふみ　氏
野幌第一地域包括支援センター　保健師　白石ゆかり　氏

◎地域包括支援センターについて

いつまでも住み慣れた地域で生活ができるよう高齢者のみなさんの生活を支える機関です。

◎これから大切になること

①「自分の健康に関心を持つこと」

健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる「健康寿命」を延ばすことができるよう、生活習慣を見直す必要があります。

（平均寿命と健康寿命との差　男性　八・八四歳／女性　一二・三五歳）

②「地域とつながっていくこと」

これからの健康づくりは「人とのつながりが続くこと」と「自分の居場所や役割が地域にあること」が大事になります。

◎江別市健康都市宣言でも次の内容を掲げています。

・こころと体の健康に関心を持つこと
・進んで自分の健康状態を確認すること
・正しい生活習慣を守ること
・地域での活動に参加し、健康づくりの輪を広げること

◎「通いの場」について

誰でも歩いて通える地域の集会所で実施しており、体と心の健康づくりと仲間づくりにつながります。

・参加し、体操することで元気になる
・集まることで、地域がつながる
・つながる地域が、まちを変える

（文責：総務副委員長　深瀬　禎一）

講座2　『「えべつ俄（にわか）」はどうしてできたか？』

講　師／語り・ひとり芝居ぐるーぷ　うるうる亭
代表　北本　京子　氏

講師の北本京子氏が二〇一〇年に結成した「語り・ひとり芝居ぐるーぷ　うるうる亭」は、俄（にわか）芝居の上演団体として子どもから高齢者まで楽しめる演劇をこれまで百回以上公演しています。二〇一七年からは演劇を通じて江別の魅力発信の一翼を担う江別市観光特使に就任しています。

俄（にわか）は漫才の初期形式とも言われ、身近な話題を取り上げて即興的に演じる芝居で、大阪、九州、四国では古来から親しまれてきた喜劇と言われています。うるうる亭がえべつ俄（にわか）を創作したのは、友好都市である土佐市との交流事業で披露された土佐市の伝統芸能の「北原にわか」の公演にインスピレーションを受けたことが契機であったことや、染め幕、拍子木、黒子などの芝居様式を踏まえながら、オリジナルの台本で毎年一作ずつを発表し上演していることなどが講演されました。

講演中に所属メンバー五名が今年の芝居演目「えべつ俄（にわか）令和が始まった！の巻」を上演しました。北海道ならではの、大麻あたりに隠れ住むエゾヒグマ、野幌丘陵あたりに出没するエゾシカ、石狩川を遡上中のシャケの三匹の動物達、縄文人風の男と黒子という親しみやすいキャラクター達が、令和の新しい時代に上手く適応していけるかの様子を演じました。

江別は演劇団体も演劇愛好家も多く、演劇の盛んなまちであると強調される講師のお話から、うるうる亭の地域と共に生きる演劇への情熱が伝わるすばらしい講演でした。

（文責：総務委員長　齊藤　徹）

講座3　「江別を愛して～地域の魅力を発信～」

講　師／メディネット江別　理事長　中村　康治　氏

中村康治氏は北九州の旧若松市の生まれで、五十歳まで地元に住んでいました。

九州生まれの氏が、なぜ今江別に住み江別を愛しその魅力を熱心に発信するようになったのか。

半生を振り返り、九州から江別に移住し、ビデオというツールを得て江別の魅力を発信するに至るまでをたどります。

地元の日立金属若松工場に技術サービスとして就職しますが、平成四年三月に三十二年間勤めた会社を自己都合で五十歳で退職しました。いくつかの事情があり、突然の退職だったようです。

その後、以前出張で訪れたことのある北海道への移住を決意し、札幌に居を構えることになりますが、マンション住まいでは家人が希望する犬を飼えず、偶然にも江別の一軒家を買うことになります。

平成十八年四月に「えべつ協働ねっとわーく」が設立され、その会員第一号になります。

そこでは「アイズTV」で情報発信をしていましたが「アイズTV」の消滅に伴い、仲間六人と市民活動団体「メディネット江別」を立ち上げ、江別の情報発信を目的として活動を開始します。平成二十四年十一月のことでした。

以来江別の魅力を各分野にわたり収録した多数のDVDを制作しています。これらの映像はインターネットで見ることができます。

今後も江別市生涯学習推進協議会と協力しながら、各市民活動団体とも協働しつつ、江別の情報の発信に努めると話されていました。

人生の節目節目で決断し、自らの思いを貫いてきた姿勢を強く感じました。

江別市民会館の館長として、多忙のなかで仲間とともに江別の魅力を発信し続ける熱意がどこからくるものなのか。

その一端をうかがうことができた講座でした。

（文責：総務委員　二川原　登）

当日の映像はこちらの「QRコード」からご覧になれます。
⬇

発行日／令和元年12月5日　発行者／江別市生涯学習推進協議会　編　集／広報委員会　連絡先／江別市教育委員会生涯学習課　〒067-0074　高砂町24-6　電 話 011-381-1062　FAX 011-382-3434　HPアドレス http://shougai.ebetsu.org/生涯学習推進協議会／

視察調査に参加して

江別市社会福祉協議会　森田　弘之

去る、十月二十五日に本年度の調査・研究事業として、岩見沢市の生涯学習の取り組みを行っている施設等を見学して、意見交換をしてきました。

私自身、通学や帰省時に岩見沢市内を車窓から見ることはありましたが、施設等を拝見することは初めてなので、とても楽しみにしていました。

三十数名を乗せたバスが教育庁舎前を出発して、車内で自己紹介を終えると、最初の岩見沢市立図書館に到着。中に入ってすぐに、一階から天井までの大きなガラスから見える紅葉の美しさをそのまま眺めながら、静観の中に浸っていました。

近郊の市町村の方も利用でき、返却場所も市内各地に設けられていて、とても利用しやすいように思えました。

続いて向かったのは、岩見沢市民会館・文化センター「まなみーる」。大小二つのホールを拝見しましたが、残響の違いにより人の声の聴取に影響があることに驚きました。ただ、維持管理に費用がかさむことに、担当者は懸念を示していました。

最後は、市内中心地にある岩見沢市生涯学習センター「いわなび」で意見交換を行いました。アリーナの他二十五室ある五階建てのビルの大きさと、常時開催している事業の多さに圧倒されました。

今回の視察調査では、フェスティバルでも好評だった子どもとのチャレンジ学習などを、もっと考えてみたいと思いました。最後に、昼食での参加者の食欲と、元気な笑い声が何よりも活力に感じたのと、レンガが使用された風格のある各施設を観て、伝統的なレンガを生産し続けている我が江別を誇りに感じました。

江別市生涯学習インストラクターの会

田﨑　彌生

十月二十五日、岩見沢市での生涯学習への取り組みについて視察調査に参加いたしました。

庁舎を出発して四十五分程で市立図書館に着き、三十分の見学、昼食後文化センター、市民会館「まなみーる」を見学し、説明を聞かせていただきました。図書館では作家さんのトークイベント等の事、「まなみーる」では、文化センターとホールを見学し、音響設備などの説明も受けました。

生涯学習についての視察は、生涯学習センター「いわなび」で行なわれました。国道とJR岩見沢駅の間の中通りに、二〇一三年に建てられた五階建てビルで、施設の概要、六年間の利用者数など説明を受け、「いわなびまつり」については実施報告で写真でも見る事ができ、大変盛況であるように感じられました。「いわなび」の建物については二十五室の研修室、学習室、武道場、軽運動室、アリーナ、実習室、音楽室など多種多様に大小部屋があり、子どもも大人もたくさんの人が広く参加できる拠点になっていて、素晴らしいなと感じました。

当会では、三地区公民館を利用して活動していますが、利便性なのか参加人数に差ができる事もあって、募集する際のチラシ、ポスターの文章と内容も、より広く生涯学習の活動を知ってもらえる事業になるよう工夫しているところですが、専用の拠点があったならより大勢の人に活動の広がりが期待できるのでは、と感じ、研修を終えてまいりました。

今回このような機会をくださり感謝申し上げます。

江別市高齢者クラブ連合会

松本　景子

十月二十五日、お誘いをいただいて初めて参加しました。

日頃、江別市情報図書館を利用している私にとっては最も関心のある岩見沢市立図書館に向かいました。〝ここが？…〟圧倒されそうな外観、躊躇してしまいそうな門構え、館内は広い、きれい、暖かい、四面八方の窓越しから見える景色のすばらしさ。冊数二十四万三千位、情報図書館の冊数と同じ位とのことでした。なんとも度肝を抜かれた感じでした。

続いて岩見沢市内で昼食。交わりの中でいただくことはおいしいこと。少々食べ過ぎ感あり、重くなった体で午後からは岩見沢市民会館・文化センター「まなみーる」へ。

文化活動の拠点となる施設で、搬入する場所が使いやすく、各方面から人気があるとのことです。次に生涯学習センター「いわなび」へ。

館内見学途中、フラダンスサークルの方々が練習していましたが、外側からも見えるようにガラス張りになっていました。十一月九日～十七日までは〝いわなびまつり〟が開かれます。作品展示会、サークル発表会、人形劇、ロビーコンサートなどなど、岩見沢市民の方々の熱い思いが伝わってきました。

帰路に着く途中考えました。比較してこそ地元の良さも解るということ。情報図書館には録音室がある、何不自由なく本を借りることができる、野幌公民館の二階の窓からの眺めは絶景（…といわれている）、人口だって増加している、などなど。今回の見学で改めて江別の魅力を再発見したということでしょうか。ありがとうございました。

これからのイベント

◆NPO法人えべつ江北まちづくり会
（連絡先／三角：011-384-0285）

○「味噌作り」
日　時／2019年12月15日(日)10:00～13:00
場　所／都市と農村の交流センター　えみくる
講　師／三角晴美　氏
参加料／2,000円
3kgの味噌をお持ち帰りできます。

○「江北ふれあいまつり」
日　時／2020年2月16日(日)10:00～15:00
場　所／都市と農村の交流センター　えみくる
冬の遊びやスノーモービル体験のほか地元特産品も販売します。

◆江別生涯学習インストラクターの会
（連絡先／松山：011-383-5751）

○創立10周年記念「桜木紫乃トークライブ」
日時／2020年2月22日(土)
　　開場13:00～(開演13:30～)
場　所／江別市民文化ホール(えぽあホール)
話し手／作家　桜木紫乃　氏
聞き手／パーソナリティ　大津桃子　氏
入場料／前売　1,000円
　　当日　1,200円

手話をまなぼう「いつ？」

「QRコード」をスマートフォン・タブレット等のQRコードリーダーで読み取っていただくと、手話の動画がご覧になれます。今回は「たずねる手話」です。

まなぼう Vol.7

『まっことに出逢えた喜び』
江別まっことえぇ&北海道情報大学
代表　柏木真紀子

江別市クイズからスタートします。第一問　江別市の花は？第二問　江別市の木は？正解は菊とナナカマドです。それではもう一問。江別市の友好都市は？ご存知の通り、昨年提携四十周年を迎えた高知県土佐市です。土佐市とは小中学生の相互訪問を行ったり、土佐大綱引きを江別地区市民祭りの恒例行事としたりなど交流の歴史を築いています。

実は、まっことえぇの誕生も土佐市と深い繋がりがあるのです。二十八年前、札幌市でのよさこいソーラン祭りの開催が決定した際に、よさこいの本場である土佐市の隣の高知市の祭りに興味が沸き、地域活性化の新しい種として江別市役所の方々が中心となって立ちあがったチームがまっことえぇなのです。チーム名も土佐藩の坂本龍馬の名台詞「まっことえぇぜよ」からいただいたそうです。

今、チームがあるのは、これまでの全ての会員の皆様、応援し支えてくださった全ての皆様、結成十年目から活動を共にしている北海道情報大学のお陰です。チーム内に受け継がれている伝統と感謝の思い。「ま」のマークに込められた四本のバーが意味する踊り子、提灯、サポーター、役員が一体となって、これからも地元江別市を盛り上げていく力になりたいという願いで踊り続けていきたいと思います。

《編集後記》

北海道は海あり山あり、栄える景色と食べ物に富んでいてとても良いところ。でも雪がねー。年になると辛いので、冬だけ暖かい所に住んでみたいと思う今日この頃です。

広報委員　石田洋子